## 川向向山遺跡（本発掘調査A）
（かわむきむかいやま）

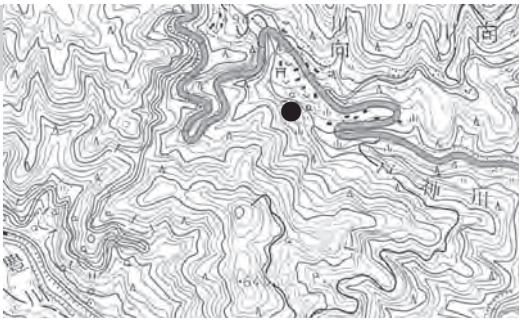
**所　在　地**　北設楽郡設楽町川向字向山
（北緯35度06分47秒 東経137度33分22秒）

**調査理由**　設楽ダム

**調査期間**　令和3年5月

**調査面積**　20㎡

**担　当　者**　樋上 昇・社本有弥・宮腰健司



調査地点（1/2.5万「田口」）

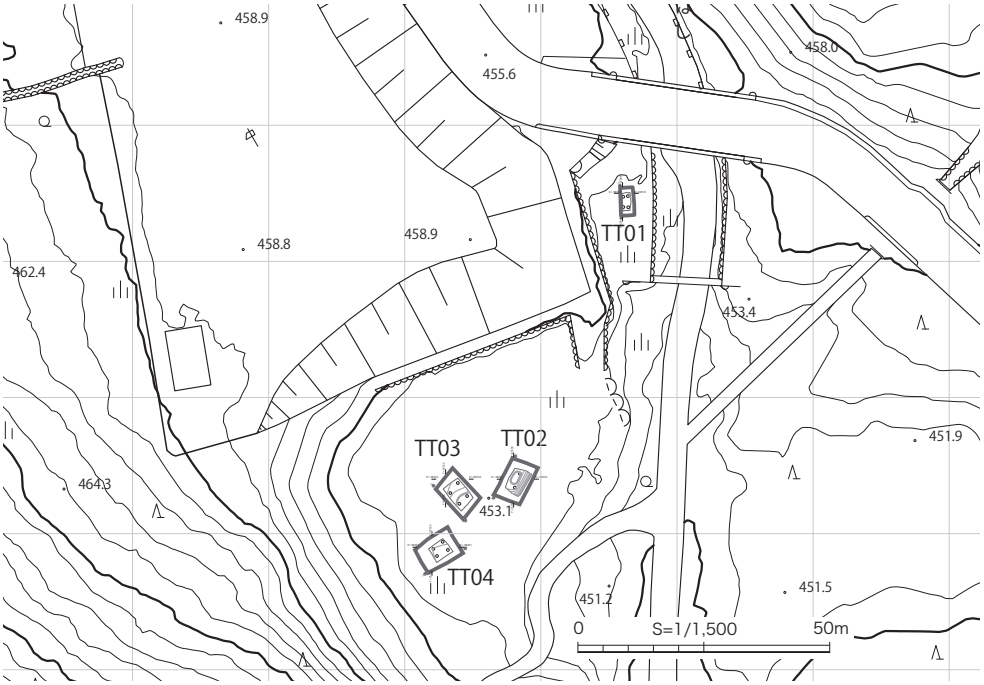
**調査の経過**　調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。

**立地と環境**　遺跡は、戸神川右岸の小規模な河岸段丘から山麓の緩斜面地に立地する。遺跡の北東、戸神川を挟んだ場所には上戸神遺跡がある。愛知県教育委員会によって分布調査が行われた際に戦国時代と思われる遺物が確認されている。

**調査の概要**　今回の調査は橋の脇の平地に１×２ｍのトレンチTT01、その奥の平地に３×２ｍのトレンチTT02～TT04を設定・掘削し、TT03とTT04は基盤層までの深堀りを行った。なおTT01は重機の侵入が困難であったので人力での掘削とした。

調査で観察された層序であるが、TT01は表土下に擁壁を造成した際に搬入されたと思われる礫を多く含む砂質シルトの層が広がっていた。TT02～TT04はにぶい黄褐色粘質シルト層、黄灰色粘質シルト層が共通して見られる。TT03で水田の一部が土層断面で確認できているのみで、包含層は確認できない。TT03とTT04は地表面より２ｍまで深堀りを行い、基盤層である褐灰色粘土層を確認した。

出土遺物は近代のものと思われる磁器片が１点のみTT03で出土している。遺構はTT03の土層断面より、近代に造成されたと思われる水田跡を確認した。　(社本有弥)




トレンチ配置図（S=1/1,500）